

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人 関記念 柘の木会		
事業所名	認知症老人グループホームうらら		
所在地	下都賀郡壬生町北小林812-1		
自己評価作成日	令和 2年 12月 17日	評価結果市町村受理日	令和3年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和3年1月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は静かで緑豊かな環境にあり、建物は柘木の蔵の街をイメージして建てられました「住み慣れた地域と家庭的な雰囲気の中で個々の尊厳・人格を尊重し、その人らしい生き方を支援していきます」という基本理念を掲げ介護の基本は接遇という事を念頭に置き、職員全員がトータルな接遇を身につけております。穏やかで安心した生活が送れるように傾聴と寄り添いの気持ち「今」を大切にしております。  
現在、コロナ禍にあり、外出支援や面会等の制限をさせて頂いておりますが、事業所内で出来る楽しみを共有し、安全・安心を最優先にし感染症予防対策を全員で取り組み、感染しない・持ち込まない責任ある行動に努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町北部の県道宇都宮柘木線から少し西に入った場所に位置し、林に囲まれた閑静な環境にある。大学病院や同法人の運営する特別養護老人ホームに隣接し、特別養護老人ホームとは行事や緊急時に協力が得られるなど連携が図られており、利用者の安心につながっている。職員は理念をよく理解し、家庭的な雰囲気を大切に環境づくりとともに、一人ひとりの思いや意向をくみ取り支援に努めている。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から家族等との面会や外出が制限される中、少しでも気持ちが和らぐようこれまで以上に寄り添うとともに、美味しく盛り付けるなど食事が楽しくなるような工夫に努めている。職員の毎日2回の検温をはじめ、こまめな換気やテーブル、手すり等の消毒など新型コロナウイルス感染拡大防止にも努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を各棟のホール・介護員室に掲示し、毎月の接遇目標や介護マニュアルと共に毎朝の朝礼時に唱和し、職員全体で共有し実践につなげている。	理念とともに接遇改善委員会が定めた毎月の目標を事務室等に掲示するとともに毎朝の朝礼時に唱和している。介護の基本は接遇であるという意識を日頃から徹底し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神社やお寺のお祭りに毎年参加し交流を深め、地域のボランティアや中学生の訪問もあり利用者の楽しみとなっていた。更に地域行事に参加することも目標としていた矢先にコロナウイルス感染予防対策として、外部との交流を一切中止せざるを得ない状況となり、この一年は交流ができていない。	地域のお祭りに参加し交流を深めたり、ボランティアや中学生の訪問受け入れをしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として現在は中止せざるを得ない状況である。地域の方とは電話で連絡をとりあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティアの来訪、中学生の福祉体験、運営推進会議等での地域の人々との交流が出来ない現状である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、北南地区地域包括支援センター職員、民生委員、ご家族、ご利用者の出席のもと、2ヶ月ごとに年6回開催していたがコロナ禍の状況で令和2年3月より書面開催としている。文書で報告・意見照会を行いその結果を町に書面報告を行っている。この状況であっても寄せて下さった意見等を反映させる様努めている。	定例のメンバーのほか年1回は消防団やボランティアの参加を得て開催していたが、昨年3月以降は書面での開催となっている。利用者の状況と生活の様子や行事等について報告し、意見等を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催の相談や災害マニュアルの確認等、取り組みについて連絡を取り合っている。厚生労働省よりの通知等、随時メールにて連絡を頂いている。	日頃から介護認定の更新や訪問調査などについて電話で連絡を取り合っている。新型コロナウイルス感染拡大防止に関するメールなどの連絡も多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者の習慣、気持ちを理解し好ましい言葉遣いを心掛け言葉による拘束を含め、身体拘束を行わないケアを実践している。内部研修により正しく理解しさりげない声掛けや見守りにより玄関の施錠はせずに対応している。	接遇マニュアルを作成し、職員の言動が精神的な抑圧にならぬよう注意しあっている。現在、書面での研修としているが新人職員には対面で説明し、意識を共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や接遇改善委員会の取り組みによって、言動に気をつけ敬う気持ちを大切にする事を学び、言葉遣いが適切か注意し合える職場環境、明るいホーム作りを目指している。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	内部研修にて知識習得に努めている。身内関係が希薄なご利用者には、安心して生活が送れるよう関係者との連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約者重要事項説明書で納得のいくまでゆっくりと確認しながら説明している。不安や疑問点についても説明・相談・話し合いを行っている。退居については理由を明確にし理解を図り、不安の無いよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者にはアンケートによる聞き取りや、普段の会話の中で気軽に意見や要望が表せるようにコミュニケーションを大切にしている。コロナ禍でご家族との交流が少ない状況ですが、来棟時や電話連絡の際に意見や要望が伺える雰囲気でご家族との交流が出来るように心掛け、今の状況に理解を得ている。	利用者に対してはアンケートの実施や日頃の支援を通じて意見や要望を丁寧に聞き取るよう努めている。家族等とは面会ができない状況であるが、電話等で意見や要望を聞き取るよう努めている。	これまで以上に家族等に利用者の様子を伝えるなどコミュニケーションを深め、より意見や要望の出やすい工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を聞く機会を設け、話しやすい環境作りに努めている。勤務体制の変更や業務改善等、職員の提案や気づきなど可能な限り検討し運営に反映させている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは個別ケアや生活上のリスク回避の提案等があり運営に反映させている。年2回業務管理シートの提出がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状態・努力・実績等を把握し、業務管理シートの提出・各自面接を行い給与・賞与に反映している。各委員会活動、行事企画運営、居室の担当を持ちやりがいにつながるような環境を整えている。成果を認める声掛けを忘れず、コミュニケーションを図る努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に新人研修、新人用マニュアルに沿って力量を把握しながら進めている。外部研修は段階に応じて受講出来るよう配慮しているが令和2年はコロナウイルス感染症予防のため、講習や外部研修は控え内部研修にて向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の総会や研修会、同業者の研修受け入れの中で交流し、活動内容や取り組み等を参考にしサービスの向上に努めていたが、コロナ禍で直接の交流は控え、電話等で交流を図った。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今、生活している上で困っている事を伺ったり、生活スタイルを伺い今までの生活と同じような生活が出来るよう、不安を取り除き安心して頂ける様に話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から困っている事、不安な事などを細かく伺い職員同士で話し合い、どのような支援が必要かを考え話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に今一番必要な支援は何か、どのようなサービスを利用するのが望ましいかを話し合いの中で見つけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に寄り添い、相手の気持ちをくみ取り、近くで見守りながら個々の時間も大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご本人の様子をうらら便りにてご家族へ渡している。ご家族面会時には、窓越しでの面会を行っている。面会時、ご本人の要望をお伝えする事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今回コロナ禍にあり面会の規制等があり、外出も控えて頂いている。電話等の対応は都度行っている。手紙、面会は窓越し対応で行っている。	現在は面会や外出の制限をせざるを得ない状況であるが、年賀状や手紙のやり取りを提案したり、電話の取次ぎなど関係継続の支援に努めている。理美容は対策をしたうえで、玄関先での訪問理美容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者一人ひとりに目配りし、お互いに助け合い寄り添い、時には職員が関係を支えていく。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談・支援を行っている。法人内の事業所とも連携を図り、ご家族からの相談など行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々にどんな暮らしがしたいか、ご本人の希望を取り入れながら施設内で可能な事は実践している。職員間の連携もきちんと行い、個々の思いに寄り添っている。	日頃から寄り添い丁寧な話を聞くよう心掛けている。特に入浴時など1対1の支援時の何気ない言葉を大切にしている。意思疎通が困難な場合には表情やしぐさから職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、馴染みの場所や人を伺い、今までの生活に近い生活が出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人ひとりのペースで一日を過ごして頂いている。個別で生活・庭内散歩・棟内歩行などを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリング実施。モニタリングを行いご家族・ご利用者・職員間で一人ひとりにどのような支援が必要か意見を出し合い、情報共有に努めている。	介護計画は家族、利用者の意見を踏まえ担当者会議で半年ごとに見直しをしている。状態が変われば、その都度見直すなど現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各々が日課として行っている事を記録している。毎日の日課として行っているが、気づきや工夫した方がいい点などがあれば連絡ノートに記入し申し送りをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズがあるが、コロナ禍のため施設内のサービスに応える事が出来るようにしている。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターと協働している。外出が出来ない中、地域の理容店に訪問して頂き利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を主治医として、受診はご家族対応を基本として協力頂いている。状態変化時は随時、主治医への報告書を作成し連携を図り情報交換をしている。状態次第で往診して下さる場合もある。	入所時前からのかかりつけ医を主治医としている。受診時には主治医への報告書を作成するとともに、家族から受診結果について聞き取り情報を共有している。家族からの依頼により往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には同法人施設の看護師に相談を行っている。薬は調剤薬局に相談・指示を頂いている。他職種連携が図れるように日頃から同法人内にて連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の状態をご家族へ伺ったり、直接病院と連絡を取り、今後の治療方針・今のご利用者の状態の確認を行い、情報交換している。退院時には、退院時カンファレンスに参加するなど病院、ご家族と連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期に向けた話しはご家族に説明している。そのような状態になってきた場合、主治医やご家族へ報告・相談し今後の方針を検討していく。特養への住み替えも視野に入れご家族へ説明している。	入所時に重度化や終末期における対応について説明しているほか、状態の変化時にはその都度話し合っている。急な看取りを行った事例もあるが、特別養護老人ホームへの入所や医療機関への入院がスムーズにできるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し急変時の対応などの研修を行い、全職員がいざという時に対応出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルは所定の場所に掲示している。内部研修として災害研修を実施している。年間計画に基づく隣接施設との合同避難訓練は、実施カンファレンスを行い改善・修正を行っているが召集訓練に関しては通報のみ実施。又、独自の想定避難訓練を当初計画していたが、コロナウイルス感染予防対策として中止している。	法定の通報・避難訓練は隣接する特別養護老人ホームと合同で実施している。消防団の協力を得て実施していた独自の避難訓練は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から休止している。備蓄は特別養護老人ホームの倉庫に用意しているほか、事業所でも個別ファイルや防寒シートなどを持ち出せるよう用意してある。	

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会を設置し、毎日朝礼にて接遇マニュアルの唱和している。又、毎月の目標の反省も行い職員一人ひとり意識向上に努めている。	毎日の朝礼で接遇マニュアルを唱和するなどして、意識を共有している。利用者には苗字にさんづけで呼んでいる。入室時の声掛け、ノックや小声でトイレ誘導するなど羞恥心やプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの得意・不得意、好み等を把握した上で本人の意向・希望が聞き出せるように声掛けを行っている。又、言葉がうまく発せないご利用者に対しても表情や言葉のニュアンス、ジェスチャーから読み解けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や意向を尊重し、毎日を過ごしている。コロナ禍で交流支援は控えているが、庭内散歩は行っている。特に自室にて過ごす事が多いご利用者に関しては、声掛けし様子を伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容に努めていると伴に、入浴後の衣類などご利用者と一緒に好みの物を選んだりしている。又、好きな髪形に整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供形態もお楽しみメニューや誕生日などご利用者の好みの物を伺い、盛り付けにも気を配りながら食事が楽しみなものとなるよう提供し支援している。コロナウイルス感染予防対策として会話は控えているが、音楽を聴きながらの雰囲気作りに努めている。	食材は宅配業者から仕入れ、毎食職員が調理している。外出が制限される中、盛り付けを変えるなど、より食事が楽しめるよう工夫している。職員も間隔を空けるなど対策を取りながら一緒に食事をとっている。盛り付けなどの準備や後片付けをする利用者もいる。寿司や弁当などをテイクアウトし、庭で食事を楽しんだこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし全職員が把握し食事形態の変更、嗜好品を提供し少しでも多く摂取して頂けるように工夫し支援している。カロリー不足、栄養の偏り、水分不足にならないよう声掛けしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要なご利用者には職員が、うがい・ブラッシングのお手伝いをしている。就寝時には義歯洗浄を行い、清潔保持に努めている。又、定期的に歯科医が来棟し口腔内チェック・指導を行っているご利用者もいる。		

認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方は自分のペースで行い、その他の方は時間や行動を見ながら声掛けし案内している。日中はトイレでの排泄を中心に、夜間は個々に合わせた排泄法をプライバシーに配慮し対応にあたっている。	自立が難しい利用者には、排泄パターンを把握して早めの声掛け誘導をしている。夜間はポータブルトイレを利用するなど個々の利用者に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを摂取している。又、牛乳も温めたり冷たくしたりと個々の体調に合わせて提供し、自然排便を促している。又、ご家族・主治医を連携を取り便秘薬を内服しているご利用者もいる。散策・体操を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の身体機能・希望に合わせて入浴を行っている。片麻痺のご利用者には補助具を使用し、出来る限り自力で入浴が出来るよう配慮している。拒否のある方には声掛けの工夫をし、無理強いをせず支援している。一対一でのコミュニケーションの場としている。	1日おきの午後入浴を基本としているが、柔軟に対応している。拒否者には声掛けを工夫し、無理強いをせず支援している。専用の椅子や浴槽に板を取り付けるなど補助具を活用したり、ヒーターで浴室、脱衣所を温めるなどヒートショックにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に生姜湯を飲み、身体を温めて安眠出来るよう支援している。又、好きなTVやラジオを聴いてリラックスして安眠につながるようしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬説明書をファイルし、いつでも確認・把握出来るようにしている。誤薬・飲み忘れがないよう複数の職員で確認・確実な服薬に努めている。又、症状に変化があった時は主治医に指示を仰ぎ迅速に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理なく行える家事手伝いをして頂き役割を持ち、張り合いのある生活を送って頂いている。庭内散策や農園での野菜作りなど季節を感じられるように工夫して支援している。毎朝、コーヒーを楽しみに飲んでいる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本来であれば月毎の行事や誕生日の過ごし方で希望を伺い、要望に沿った外出支援や受診等でご家族と外出した際、外食するなど様々な外出を楽しめるよう支援しているが、コロナウイルス感染予防のため控えざるを得ない状況である。ただ日常的には散策や観音様参拝を日課にされている方もいる。	外出を制限せざるを得ない状況であるが、敷地が広く自由に散歩したり、観音様のお参りをしたりする利用者もいる。体力や筋力の維持のため、棟内歩行や足踏みマッサージ、レクリハ体操、ラジオ体操などを行っている。	



認知症老人グループホームうらら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりしており、行事や外出の際に使用したり必要な物がある時に使用している。預けてあるお金があることに安心している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望がある時、ご家族と電話でお話して出来るよう支援している。又、携帯電話を持っている方は自由に連絡を取り合っている。面会の部分については、コロナウイルス感染予防のため直接会う事は避け、窓越し面会にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りつけや、レクの時間に季節ごとの作品を作成している。又、湿度・温度を確認し過ごしやすい空間づくりに努めている。	温湿度計で測りながら過ごしやすい温湿度に調整している。利用者とともに制作した貼り絵など季節が感じられるような飾りつけをしている。職員の毎日2回の検温をはじめ、こまめに手すり、テーブル、椅子等をアルコール消毒したり、換気したりと新型コロナウイルス感染拡大防止対策にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の関係性を配慮し席を配置している。又、お一人でも安心して落ち着いて過ごすことが出来るように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使用されていた物を持ち込んでいただき、ご自宅に近い居室づくりに努めている。又、安全に過ごせるように考慮し、家具の配置を行っている。	ベッド、洗面台、エアコン、タンス、クローゼットが備えつけられている。利用者はテレビや冷蔵庫、椅子、位牌などを持ち込んでいる。写真やカレンダー、職員の作ったカードなどを飾り居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯たみ、食事前の準備などご自分で出来る方には声掛けし行って頂いている。歩行の妨げにならないよう配慮し、動線づくりに努めている。		